

能と狂言

鏡仙会
TESSENKAI

定期公演

復曲
能
重衡 しげひら

浅井 文義

狂言
文荷 ふみにない

野村 萬

能
小鍛冶 こかじ
黒頭

谷本 健吾



2024年7月12日(金)
午後6時開演(午後5時30分開場)
会場 観世能楽堂

鏡仙会定期公演〈7月〉

2024年7月12日(金) 午後6時開演

復曲 能 重衡

前シテ
後シテ

老人 浅井 文義
平重衡

ワキ 旅僧 宝生 欣哉
アイ 奈良坂辺ノ男 野村拳之介

笛 杉 信太郎
小鼓 成田 達志
大鼓 柿原 弘和
地頭 片山九郎右衛門

のどけき春の南都、奈良坂を訪れた諸国一見の旅僧
そこへ不思議な老人が現れ、東大寺大仏殿や西大寺、法華
寺、興福寺と見事な仏閣の数々を教えると、この地で果て
た平重衡の回向を僧に頼み、消え失せてしまう。

やがて僧の吊いに甲冑姿の重衡の霊が現れると、一ノ谷の
合戦にて捕縛され、木津川で処刑された自らの最期の有様
を語って聞かせ、修羅道の苦患を見せる…。

風雅な公達、勇猛な武将を描いた他の修羅能とは異な
り、南都を焼き払った重衡の罪障懺悔と深い苦悩を描く。
昭和58年に浅見真州のシテで橋の会が復曲上演して以
来、再演を重ねる復曲能。



狂言 文荷

ふみにない

シテ 太郎冠者 野村 萬
アド 主 野村万之丞
小アド 次郎冠者 野村 万蔵

主人の命令で稚児宛の恋文を届けることになった二人の
召使い。気の進まぬ二人は主人の稚児狂いを茶化し、文を
持ちたくないがために重くもない文が重いなどと言って竹
竿に文を結びつけ、二人で担いで運ぶが…。
能「恋重荷」の要素を取り入れたパロディ的狂言。

能 小鍛冶

黒頭

前シテ 童子 谷本 健吾
後シテ 稲荷明神

ワキ 三條宗近 大日方 寛
ワキツレ 勅使 御厨 誠吾
アイ 宗近ノ下人 河野 佑紀

笛 粟林 祐輔
小鼓 飯田 清一
大鼓 亀井 洋佑
太鼓 小寺真佐人
地頭 柴田 稔

神剣を奉じよとの勅を受けた三條宗近がともに剣を
鍛える相槌の者を求めて稲荷明神に参詣すると、一人の少
年が現れ、剣の威徳を讃えて宗近に助力を約束する。
やがて稲荷明神が颯爽と現れ、宗近とともに剣を鍛えて
剣を勅使に捧げ、叢雲に飛び乗って去るのだった。

「黒頭」の小書は明神の獣性を強調した重厚な演出。

〈午後9時20分頃終演予定〉

◎より詳しい解説を鏡仙会ホームページにて順次公開しております。

ご観能前には是非ご覧下さい。

※携帯電話等、音や光の出る機器の電源は予めお切り下さい。

※無許可の写真撮影、録音、録画は固くお断り致します。

※客席内での飲食はご遠慮下さい。

会場：観世能楽堂(全席指定)

〈交通〉銀座駅(A3出口)徒歩2分
東銀座駅(A1出口)徒歩3分
有楽町駅(銀座出口)徒歩10分

〒104-0061

東京都中央区銀座6-10-1

GINZA SIX 地下3階

TEL 03-6274-6597

※併設の駐車場がございます。

詳しくは、GINZA SIXの

ホームページにてご確認ください。

入場料：S 席 7,000円

A 席 6,000円

B 席 5,000円

C 席 4,500円

U 25歳以下 2,700円

賛助会員 年間指定席/年11回

S 会員 175,000円

A 会員 165,000円

B 会員 154,000円

C 会員 149,000円

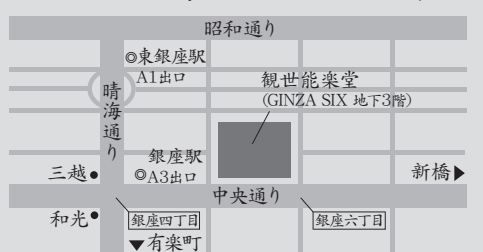
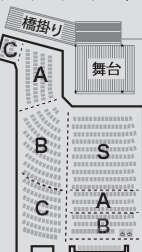
※賛助会員制度は1月より1年間同じ席でご覧頂くというのですが、
随時入会も可能です。詳しくは鏡仙会までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ・お申し込み：鏡仙会

電話 03-3401-2285(平日10~17時)

ホームページ <http://www.tessen.org>

予約受付開始：2024年4月15日(月) WEB 10時、電話 13時



9月13日(金) 午後6時開演

会場：観世能楽堂

能 龍田

霜枯れの季節に紅葉する龍田の神木、龍
田明神はその由来を語り、神楽を舞う。 清水 寛二

狂言 菊の花

都見物をしてきた召使いが都の様子を
主人に聞かれ、美しい上臈の話始める。 野村 萬斎

能 恋重荷

身分違いの決して叶わぬ恋に苦しむ女
を恨んで死んだ老人の激しい恋の妄執。 片山九郎右衛門

青山能 MIRAI 予告

会場：鏡仙会能楽研修所

8月31日(土) 午後1時30分開演

狂言 居杭

安が消える頭中を清水観音から授かった
居杭は頭中を使って大人を翻弄して…。 山本 則光

能 土蜘蛛

千筋の糸を投げ掛けて襲いかかる土蜘蛛
は頼光とその家臣独武者と激しく戦う。 谷本 康介

写真 表面 復曲能「重衡」 浅井文義 撮影：ヴィンチ佐藤
裏面 能「小鍛冶・黒頭」 観世鏡之丞 撮影：吉越研